特定非営利活動法人
湘南 NPO サポートセンター
平成 30 年度 事業報告書

2018 年 4 月～2019 年 3 月

(平成 30 年 4 月 1 日より平成 31 年 3 月 31 日まで)

～一人ひとりが自分らしく暮らせるまちに～

わたしたちは、組織や制度の壁を越え、人々がつながり共に行動する市民社会をつくるため、NPO・自治体・企業・大学等と連携し社会課題・地域課題の解決に向けて活動しています。

湘南NPO
サポートセンター

［平成 30（2018）年度事業報告書］

事業総括

理事長　坂田　美保子

平成 30(2018)年は、NPO 法の施行日（1998 年 12 月 1 日）から数えてちょうど 20 年の節目の年に当たり、全国各地で記念事業が開催されました。これからの市民社会を考える機会として、NPO 関係者による多彩なディスカッションが行われ、2040 年頃には、経済と社会において、企業なのか NPO なのかはあまり関係なくなるだろうという意見や、草の根活動はまさに足元からでありそれに勝るものはないという意見、そして NPO 法の存在意義についての意見等を耳にして、改めて NPO の価値や求められるものは何かを振り返る一年でした。

さて、平塚市では、市民活動センターが市民活動推進条例に基づき設置されて約 15 年が経ちました。20 年以上前から環境保全活動をはじめとした多種多様な市民活動が繰り広げられ、市民活動団体の悲願であった、市民活動センター設置は市民活動の活性化に大きく寄与してきました。公設公営だったセンターが、平成 29 年より当法人と平塚市との協働による運営を開始、その後、平成 31 年 4 月にセンターが見附町に移転することが決まりました。その前月 3 月 17 日に「15 年の市民活動を振り返るとともに、新しい施設が今後の市民活動を一層盛り上げる契機にしたい」と利用団体交流会を開催しました。参加団体からは、こんなに多様で多彩な活動がこの平塚で展開されていることをはじめて知ったという声や、逆に平塚の市民活動の奥深さを知ることができたという声もあり、横のつながりをつくるきっかけの場や情報発信の重要性を改めて実感する機会となりました。

本市でも高齢化に伴い、解散する市民活動団体が増えつつあり、逆に新しく生まれる団体数は伸び悩んでいます。今後ますます多様化するであろう社会（まち）の課題は、行政だけでは当然解決できず、NPO や企業・大学等々との連携・協働なくしては成しえません。そのためには、市民ひとり一人が自分事として考え行動することはもちろんのこと、NPO が本来持つべきアドボカシー（政策提言）やロビー活動を通じて社会を変えるための行動を起こすことが重要ではないかと思います。移転後の市民活動センターをどう運営し、市民活動をどう活性化していくのか、私たちに課せられた責任と期待は決して少なくありません。法人全体としての自覚と責任を理事会及び会員各位が持ち、あってよかったと思ってもらえるような組織を目指して活動していきたいと思います。

本年は、昨年スタートした体制を更に充実していく年度として、各事業部が連携・情報共有しながら、組織の一員として行動できる人材の育成を進めていきたいと考えます。

これまで以上に会員の皆様、並びに関係各位の変わらぬ温かいご協力ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

［事業運営に関する事項］

特定非営利活動に係る事業

（１）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

・内　　容　　市民活動団体や地域活動団体の相談や援助の活動及びコーディネート、情報交換と交流の場づくり、講演会の開催、内部研修

・日　　時　　随時
渋田川桜まつり（4/８）、河内川あじさいまつり(6/17)、交流会（12/13）

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　７人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体等

・支　出　額　　117,198 円

イ　平塚市との協働事業：ひらつか地域づくり市民大学の開催、地域人材の育成、コーディネート

・内　　容　　第６回ひらつか地域づくり市民大学の開催（地域づくりの人材育成）

・日　　時　　7 月 21 日、8 月 25 日、9 月 15 日、11 月 3 日、11 月 10 日、
12 月 1 日　（全６回）

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　７人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、平塚市及び近隣市町村民

・支　出　額　　380,065 円

ウ　平塚市との協働事業：ひらつか市民活動センター協働運営事業

・内　　容　　平塚市との協働による「ひらつか市民活動センター」の運営事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　６人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者等

・支　出　額　　9,962,218 円

エ　共生社会推進地域調査研究事業（神奈川県委託事業）

・内　　容　　土屋地区・吉沢地区における乗り合い交通アンケート調査の実施及び研修

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　12 人

・対　象　者　　土屋地区及び吉沢地区住民

・支　出　額　　997,920 円

（２）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業

ア　メディア事業

・内　　容　　市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの相談・制作。WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作。

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内及び近隣市町村

・従事者人員　　5 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者等

・支　出　額　　2,224,373 円

イ　スマホ・タブレットサロン

・内　　容　　マンツーマンによる IT 支援

・日　　時　　毎週木曜日 10:00~12:00

・場　　所　　ひらつか市民活動センター

・従事者人員　　6 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体

・支　出　額　　120,819 円

ウ　ひらつか地域魅力ネットの運営

・内　　容　　市内の魅力的な人・場所・コトを取材し、記事を HP に掲載

・日　　時　　通年

・場　　所　　ひらつか市民活動センター

・従事者人員　　10 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者

・支　出　額　　12,301 円

（３）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

実施しなかった。

尚、事業の詳細は別紙に記載する。

別紙

（1）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

●相談及び助成金に関する諸手続き等の支援

市民活動団体の相談（団体運営に関すること、NPO 法人の設立、申請書・報告書の書き方、事業計画の立て方、事業の進め方、助成金の申請サポートなど、団体からの相談に適宜対応、アドバイスを行った。※ひらつか市民活動センターの相談件数含む

●市民活動団体及びメンバー間の交流・情報交換の場づくり

本年は、渋田川桜まつり（４/8）、河内川あじさいまつり(6/17)、市民活動センターまつり（9/23）に出店した。地域の枠を超えた情報交換や交流を通して互いの理解を深めることができた。交流会(12/13)では、会員同士の交流を促進し互いの労を労った。

講演会の開催：9 月 2 日(日)13:30～16:30

NPO 法人施行 20 周年を記念して「創業から継承まで～NPO フュージョン長池の 19 年～」と題し、NPO フュージョン長池の富永一夫氏を講師にお招きし、講演及び懇談会を開催した。当日は東京から静岡まで 21 名の方にお集まりいただいた。

●町内福祉村ひだまりの里　交流部会事業「吉沢寺子屋」の運営サポート

8 年目を迎えた寺子屋の運営サポート及び情報発信の支援：寺子屋のブログ（てらこっ子ブログ）の更新事業を行った。安定的な運営ができるのは平塚地区 BBS 会（神奈川大学生・BBS 会 OB、OG）の継続的な支援と寺子屋卒業生が OG として関わってくれることが大きい。神大の移転を 3 年後に控え、寺子屋の体制を再構築する時期を迎えている。

イ　平塚市との協働事業：ひらつか地域づくり市民大学の開催、地域人材の育成、コーディネート

●地域づくりの担い手の育成と地域づくりへの関心を高めるため、第 6 回ひらつか地域づくり市民大学を開催した。公開講座を含め延べ 247 名の参加があった。

日時	内容	受講者数
7 月 21 日（土） 公開講座	第 1 部：講演　被災地に学ぶ「自治の取り組み」と「地域コーディネーターの役割」 講師：二宮　雄岳氏（釜石リージョナルコーディネーター協議会：釜援隊隊長）	61 名 （関係者含 81 名）

	第２部:座談会　全員参加で住みやすい地域づくり ゲスト：小宮 保氏（横内地区社会福祉協議会前会長） 小澤 八重子氏（旭北公民前館長） 二宮 雄岳氏 コーディネーター：鈴木奏到氏(一般財団法人計量計画研究所理事)	
8 月 25 日（土） 地域活動講座第１回	ファシリテーションのコツを学ぼう 講師：鈴木奏到氏、坂田美保子氏（NPO 法人湘南 NPO サポートセンター理事長）	45 名
9 月 15 日（土） 地域活動講座第２回	平塚の元気な地域づくりの事例から学ぼう 講師：鈴木奏到氏(一般財団法人計量計画研究所理事) 事例紹介者：長尾正春氏（豊田福祉村村長） 菅野由美子氏（女性防災クラブ平塚パワーズ会長）	43 名
11 月 3 日（土） 地域活動講座第３回	土屋の地域づくりを聞いて学ぼう～まち歩き～ ゲスト：安池直治氏（土屋公民館） 秋山達郎氏（土屋公民館主事） 協力:土屋地区の皆さん	36 名
11 月 10 日（土） 地域活動講座第４回	地域資源（人・もの・コト）の上手な活用方法 講師：三浦由理氏　ナレッジトラスト代表	29 名
12 月　1 日(土) 地域活動講座第５回	地域をコーディネートする力をつけよう（修了式） 講師：三浦由理氏　ナレッジトラスト代表	33 名

●２月末「第６回ひらつか地域づくり市民大学報告書」を 400 部発行した。　※別紙参照

●平塚市（協働推進課・中央公民館・福祉総務課）との定例会議（毎月１回）

内容：事業の企画会議・進捗確認・運営、中長期的事業方針・目的・方向性に関する会議等

平塚市（協働推進課・中央公民館・福祉総務課）との定例会議		
平成 30 年　3 月 13 日	4 月 16 日	5 月 15 日
7 月 12 日	8 月　7 日	10 月 18 日
平成 31 年　2 月 5 日	3 月 13 日	
平成 30 年 5 月 1 日　三浦講師との打ち合わせ　～開催日までに 3 回打ち合わせ		
各回開催前に、ゲスト等との綿密な打ち合わせを行う。打ち合わせ回数は延べ 10 回程度		

ウ　平塚市との協働事業：ひらつか市民活動センター協働運営事業

●行政提案型協働事業「ひらつか市民活動センター協働運営事業」の２年目を実践した。

＜30 年度のスタッフ配置＞

団体スタッフ　常勤２名、非常勤４名、計６名

公営スタッフ　常勤１名、非常勤４名、計５名

（29 年度は公営スタッフ　常勤３名　非常勤４名）

＜事業の目的＞

①市民活動センターの中間支援機能を強化するため、 団体の専門性、当事者性を活かした市民目線での柔軟な運営を取り入れる。

②将来的な民営化に向けて、これまでの運営ノウハウを着実に引き継ぐ。

＜事業の目標＞

【１年目】　相談・コーディネート機能の強化

【２年目】　情報発信・研修機能の強化

【３年目】　人材育成・ネットワーク機能の強化

＜センター事業＞

●毎月１回のスタッフミーティングで事業実施状況を共有した。

12 月のミーティングでは、相談ケース会議を実施した。

日時	内容	参加者数
	NPO 法人実務講座２事業	
4 月 19 日(木)	・NPO 法人の会計と活動計算書 ３団体６名	計８名参加
1 月 25 日(金)	・NPO 法人の会計＆税務個別無料相談会　２団体２名	
	市民活動応援講座５事業	計 111 名参加
6 月 30 日(土)	・NPO 法人のつくり方 ７団体 12 名、個人９名、計 21 名　満足度 90%	
9 月 29 日(土)	・初めての助成金～申請と活用の方法～ ５団体８名、個人４名、計 12 名　満足度 91%	
10 月 25 日(木)	・思わず目を引く NPO のための情報発信 ９団体 17 名　満足度 84%	
11 月 24 日(土)	・居心地の良い場のつくり方　２回連続 ① 場づくりの基本と仲間づくり 13 団体 21 名　個人４名　計 25 名　満足度 92.1% ② 会議のやり方と活動のふりかえり方	
12 月 8 日(土)	14 団体 21 名　個人４名　計 25 名　満足度 94.6% 昨年に引き続き開催した。組織運営の根幹ともいえる話し合いや会議	

2月8日（金）	の場、振り返りは次へのステップにつながることなど高評価だった。 ・事業報告書の書き方 6団体7名　スタッフ4名　計11名　満足度90.5%	
7月20日～ 8月31日まで 9月23日(日)	**市民活動ボランティア啓発事業２事業** ・夏のユースボランティア体験2018 64名（中学生29名、高校生31名、大学生4名） ・市民活動センターまつり　参加人数1,800名 **IT講座、IT相談会４事業** ・HP作成講座、Excel講座、パソコン相談会、パソコン交流かふぇ	計1,864名 計293名
6月13日(水) 8月8日（水） 10月10日(水 12月12日(水 1月16日(水)	**団体交流事業７事業** まちづくりミーティング：コミュ☆カフェ ① 認知症の方への理解と対応　参加13名 ② いざという時の防災まめ知　参加13名 ③ こども食堂の課題とこれからの広がり　参加24名 ④ 若者のまちづくりミーティング　参加17名 ⑤ 旅のことばカードを使って認知症について話そう　参加15名	計175名
1月30日(金)	企業とNPOのパートナーシップミーティング 12団体20名、企業5社8名、ゲスト5名、計33名　満足度100%	
3月17日(日)	利用団体交流会 参加60名 ゲスト5団体	

<相談に関する取り組み>

・相談件数227件（※264件）

（H28年度176件、H29年度211件（※222件））※登録に関する相談を加筆

前年比42件増、119%

相談内容	登録団体	一般団体	市民・登録外団体	合計
市民活動団体を知りたい	7（3）	1	32（27）	40（30）
ボランティアをしたい	1（0）	0	39(38)	40(38)
団体を作りたい	1(0)	0	11(9)	12(9)
センター利用相談	1(4)	1	6(24)	8(28)

団体運営相談	26(35)	0	7(11)	33(46)
助成金の情報を知りたい	14(7)	0	3(5)	17(12)
NPO 法人を設立したい	2(2)	0	7(7)	9(9)
登録に関する相談	-	-	37(11)	37(11)
その他	19(7)	1	48(32)	68(39)
合計	71(58)	3	190(164)	264(222)

※（　）内は H29 年度実績。一般団体は 30 年度から集計。

・30 年度も登録団体・登録外団体からの相談が増えた 67 件増（154%）
特にセンターに登録したいという相談が急増した（26 件増）。市民センター閉鎖に伴うものの他、30 代～40 代の若い層の団体登録の相談が増えた。

・「相談に関するアンケート(1 月)」の実施
回答 152（146）人、108（81）団体。相談に対するニーズを把握。（カッコ内は 29 年度）会員、ボランティアが少ない（増えない）と考えている団体が前年比（5 件→17 件）と 3 倍強となっている。また、協働事業を提案したいが前年比（5 件→14 件）と 3 倍強となっている。

・「専門相談コーナー」5 月開始　月 2 回（第 2 火曜・第 3 木曜）
専門相談件数 5 件（継続 2 団体）運営・助成金に関する相談があった。
専門スタッフがセンターに常駐したことにより日常的に相談対応が出来ることになったため、専門相談コーナーの件数は若干減った。NPO 法人からは税務会計の個別相談希望の声があり（30 年度個別相談での評価が高かった）、次年度に活かしたい。

●相談事業の体制と心構え
・一人ひとりに誠実に向き合い、真のニーズを引き出せるよう、丁寧な対応を心がけた。
・日頃の会話やヒヤリングの中から、相談につながる糸口を見つけ、適切な情報提供ができるように心がけた。
・イベントや講座の来館者にも積極的にお声がけし、相談につながる関係づくりを心がけた。

<スタッフの育成>
【センタースタッフ外部研修】
6/27　助成金・補助金を獲得した団体のための会計＋日々の事務処理　1 名
6/26～27　初任者研修会 2018 宿泊研修（日本 NPO センター主催）　1 名
7/9　平成 30 年度ボランタリー活動支援施設 CEO ミーティング　1 名
7/13　NPO と行政の対話フォーラム’18　協働の未来へ、次の一手を考える　1 名
8/23　信頼される団体になるために NPO 会計講座基礎編　1 名
10/16　ボランタリー活動相談窓口研修　3 名
【センタースタッフ内部研修】
1/24　チラシのつくり方　5 名

2/28　協働・協働事業及び地域メディアの活用　５名
【神奈川県ボランタリー基金 21 事業パートナー団体として参加】
プロボノアカデミー
（7月 11 日、8月 29 日、9月８日、２月７日、３月９日（成果報告会）全５回（1名）

エ　共生社会推進地域調査研究事業(神奈川県委託事業)
●共生社会推進地域調査として、平塚市土屋地区及び吉沢地区の住民に対し、乗り合い交通実施に関する意識調査を実施した。土屋地区全 783 世帯にアンケート用紙を配布、573 世帯(73%)より回答をいただいた。また、吉沢地区では全 1480 世帯にアンケート用紙(3 部)計 4440 部を配布し、963 部(21.7%)を回収した。それぞれの結果を報告書としてまとめ発行した。アンケート調査には東海大梶田ゼミの協力を得て行った。

（２）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業
ア　メディア事業
●市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの作成、WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作を行った。この活動を通して市民、市民活動団体、地域活動団体の組織基盤強化と団体の自立に向けての後押しをすることができた。定期的な刊行物などの依頼が増加し、不定期ながら繰り返し依頼していただけるクライアントも増えつつある。
●メディア事業会議　　クライアント様と適宜内容に応じて打ち合わせを行った。
【実績】：NPO 法人暮らし・つながる森里川海様、女性防災クラブ平塚パワーズ様、平塚市自治会連絡協議会様、平塚のら猫を減らす会様、桂川・相模川流域協議会様、横内中学校 PTA 様、平塚市 PTA 連絡協議会様、のぞみ会神奈川支部様、豊田歴史サークル様、八幡商店会様、株式会社 吉川商事様、市議会議員様　　他

イ　スマホ・タブレットサロン
●毎週木曜 10 時～12 時、市民活動センターを利用して IT 支援（スマホ・タブレット・PC の使い方についてマンツーマンによる支援を行った。
※サロン開催回数５０回、参加延べ人数１２９人、講師延べ人数１７９人
IT スキルの高いシニア会員が中心となって 2 年目の継続開催。サロン形式でほぼ個別対応。受講生からは「マイペースで優しく教えてもらえる。楽しく、ついていける。知人に紹介したい。」などなどの評判有。新センターで、定着してきた。
ウ　ひらつか地域魅力ネットの運営
●平成 29 年度ひらつか市民活動ファンドを活用した組織基盤強化事業「Web ライターを養成し情報発信力の強化を図る」を自主事業として実践した。取材・編集の基礎を学んだメンバーが地域で活動する魅力ある人・団体・場所・お店等を取材し、Web サイトへ掲載。平塚の魅力発信を行うとともに市民活動･地域活動の情報発信の場､交流の場として活用していただくことを目的としている。

●平成 29 年度の「Web ライターを養成し情報発信力の強化を図る」 講座修了以降（9～3 月）の記事数は 17 本、平成 30 年度 4～3 月は 24 本の記事を投稿する事ができた。
ホームページの記事から直接の共有は最も多いもの（オーガニックタウンを湘南で！）で 183 を記録した。FB アクセス数も増加し、人気の記事（平塚発　伝統と IT の融合　だるまや京染本店）は 1,000 以上にリーチし、いいね・投稿・シェアなどのリアクションをした人は 80 を超えた。

●NPO 法人森ノオトさん主催事業「発信力 UP 講座（神奈川ボランタリー活動補助金事業）」最終回で、当会 WEB サイトの紹介をさせていただき、県内の団体さんに知ってもらう機会を得た。

[法人運営に関する事項]

（1） 会員

●会員数

平成 31 年 3 月末日時点

正会員　34 名　　賛助会員　12 名　　アドバイザー　1 名

ボランティア　6 名　　合計 54 名

●第 6 回定期総会（社員総会）

日時：平成 30 年 6 月 3 日（日）15:00～17:00

会場：ひらつか市民活動センター

参加者：23 名

（2） 会議

●理事会		
第 1 回　5 月 11 日	第 2 回　6 月 3 日	第 3 回　7 月 21 日
第 4 回　9 月 25 日	第 5 回　11 月 10 日	第 6 回　1 月 19 日
議題：総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、平塚市提案型協働事業 次年度組織体制、役員人事、等		

●定例会		
第 1 回　4 月 12 日	第 2 回　5 月 10 日	第 3 回　6 月 14 日
第 4 回　7 月 12 日	第 5 回　8 月 9 日	第 6 回　9 月 13 日
第 7 回　10 月 11 日	第 8 回　11 月 8 日	第 9 回　12 月 13 日

第 10 回　1 月 10 日	第 11 回　2 月 14 日	第 12 回　3 月 14 日
議題：ひらつか地域づくり市民大学、ひらつか市民活動センター、地域魅力ネット編集 イベント企画、平塚市提案書協働事業、等		

（3）各団体・行政・他機関等委員の受任

平塚市社会教育委員(1 名)
平塚市地域教育力ネットワーク協議会委員（1 名）
平塚市中央公民館運営委員(1 名)
平塚市青少年指導員(2 名)
公益財団法人平塚市生きがい事業団理事（1 名）
平塚市横内公民館運営委員（1 名）
平塚市横内中学校評議員（1 名）
綾瀬市市民活動応援補助金（きらめき補助金）選考委員会委員 (年 3 回)（1 名）

●事業提案

平成 30 年 10 月 6 日（土）	平塚市行政提案型協働事業「ひらつか市民活動センター協働運営事業」3 年目　公開プレゼンテーション　提案団体として出席

●講師派遣・受託事業

平成 31 年 1 月 10 日（木）	平塚市職員協働研修会「イチから学ぶ市民活動と協働」（坂田）
平成 30 年 4 月～年間	平塚市着地型観光事業準備会　アドバイザー （鈴木・坂田）

4．組織体制　平成 30 年度末時点

理事長	坂田　美保子	副理事長	氏家　真美
理事	鈴木　奏到	理事	梶田　佳孝
理事	木村　美江子	理事	菅野　由美子
監事	徳永　宣明	アドバイザー	二宮　雄岳　氏

正会員　34 名
賛助会員　12 名
アドバイザー　1 名
ボランティア　6 名　　合計 54 名

以上